

第71回川崎市文化芸術振興会議（摘録）

- 1 会議名 川崎市文化芸術振興会議
- 2 日時 令和8年3月2日（月）午後3時30分～午後5時30分
- 3 場所 川崎市役所本庁舎7階701会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 川崎議長、小川委員、犬飼委員、佐藤（敦子）委員、佐藤（昌弘）委員
三瓶委員、田村委員、能崎委員、藤嶋委員、保延委員
 - (2) 事務局 市民文化振興室：日笠室長、山本担当課長、井上担当係長、高村主任
 - (3) 事業担当者
(音楽文化振興事業) 市民文化振興室：濱松担当課長、秋山課長補佐
(川崎市文化財団事業) 市民文化振興室：荻野担当係長
- 5 議事
 - (1) 令和7年度文化アセスメント（音楽文化振興事業）について
 - (2) 令和7年度文化アセスメント（川崎市文化財団事業）について
- 6 その他
 - (1) 今後のスケジュールについて
- 7 公開・非公開の別 公開
- 8 傍聴者 なし

【議事内容】

川崎議長 それでは、次第に沿って議事を進めたいと思います。まずは、議事（1）について、事務局から資料の説明をお願いします。

（事務局より資料1「文化アセスメント調査・評価シート（音楽文化振興事業）（案）」及び資料3「令和7年度文化アセスメント実施結果報告書（案）」の説明）

川崎議長 ありがとうございます。事務局から令和7年度文化アセスメントについて、まずは「音楽文化振興事業」の実施結果報告について説明がありました。評価シート案や報告書案について、委員の皆様から御意見や修正等がございましたら、お願いします。

能崎委員 神奈川フィルに対する補助金の妥当性に係る評価もアセスメント主旨の1つに含まれていたと記憶しています。神奈川フィルはプロのオーケストラにつき、演奏レベルが高いのは当然であり、むしろ「地元オーケストラ」だからこそ、市税を投入する意味があるという部分を評価シートに示した方が良いと思います。回数を増やせばそれに越したことはありませんが、例えば、地元の学校を細かく回って頂いているとか、地元のまちなかで演奏して頂いているとか、そういったトーンを出した方が良いと思います。

川崎議長 地元のプロ集団だからこそ、皆で応援するといった主旨にも繋がるかと思えます。事務局で記載の反映をお願いします。他にございますでしょうか。

保延委員 「資料1」ミューザ公演の来場者5,000人の内訳は分かりますか？川崎市民がどの程度来たか分かれば計画の視点である「市民が質の高い音楽に触れる機会が提供される」といった理解にも繋がりやすいかと思えます。

事業担当 内訳すべてを追ってはいないため詳細は分かりませんが、神奈川フィルは県内や横浜みなとホールを主な拠点としていることもあり、かなりの割合で横浜市民や県西部の方の割合が多いと認識しています。ただしミューザ公演であることに加え、市民割引も設けていることから、川崎市民も一定数はいるものと考えております。

川崎議長 内訳については、確認できる可能な範囲で追記をお願いします。他にございますでしょうか。

佐藤（敦）委員 川崎市からの補助金700万円について、「学校コンサート」、「まちなかコンサート」、「ミューザ公演」に対し、それぞれどのように振り分けるかは、神奈川フィルの裁量という理解で良いでしょうか？

事業担当 そのとおりでございます。

佐藤（敦）委員 評価シートにおいて「実施回数の拡充」を示している一方で、予算を増やすことは難しいというのは、民間で言うところの「下請け叩き」のように感じます。もし回数を増やすのであれば、金額についても神奈川フィルと協議する必要があると思います。また、まちなかコンサートにおける「撮影に関するルールの不徹底」という旨の記載は、神奈川フィルのスタンスに係る話かと思うので、市として強く求めているのであれば記載は不要かと感じています。

事業担当 実施回数は、予算増額も検討してはおりますが、なかなか難しい中で、運用の工夫で何らか出来ないものかと考えており、今後も引き続き検討していきたいと思っています。また、まちなかコンサートの「撮影に関するルール」はおっしゃる通り、市として強く求めているものではございません。

川崎議長 市の財政事情すべてを把握しているわけではありませんが、実施回数を増やすことが簡単な話でないことは重々承知しています。シートの記載における、「質の高い」という文脈に関して文句はないと思います。ただし事業目的である「鑑賞機会の提供」という点について、少し工夫の余地があるだろうというのが大枠の話かと思っております。

川崎議長 予算が無い中でどうするかという点ですが、当該事業については、市民からすれば何の予算でも良いわけで、市民文化局の予算にこだわる必要もないと考えております。たとえば、教育予算は多岐に渡るものが多い中で、教育委員会における総合学習の一環として学校コンサートを位置付けて、文化室がこれを補助するという形はあり得るかと思えます。また、まちなかコンサートは、商工会議所や商店街の協賛のような形で事業費が取れないか、あるいは産業振興の予算は使えないか、そういったあたりのアイデアは出せるかと思っています。

川崎議長 あくまで市民文化局としては、神奈川フィルの活動を後押しするというスタンスで良いと思いますが、「音楽のまちづくり」という視点で言えば、それを担当する部局があると思うので、庁内の横串をさす形で予算の使い方が考えられる旨の内容を提言に記載出来れば、市民文化振興室としても予算協議のきっかけになると思います。「学校教育」や「まちづくり」という視点で考えた場合、音楽を提供する主体は市民文化局に限らず、教育委員会でも経済労働局でもまちづくり局でも良いと考えており、重要なことは音楽を提供する機会が、市内において複数で継続的に展開されているということかと思えます。それらは「音楽のまちづくり」に繋がるものであり、そういった内容が提言に盛り込まれると良いのではないかと考えております。

小川委員 来年度に開催が予定されている横浜市のグリーンエキスポでも、子どもの未来につながる活動に向け、複合的な予算で対応する話が出ているようです。当該事業でも同じように、何らかの形で予算を拡充し、取組の展開に繋がれば良いと感じています。

川崎議長 ありがとうございます。他にご意見などありますでしょうか。

藤嶋委員 芸能や芸術、文化などに関するメッセージが少し弱いと感じています。まちづくりを行政としてやっていくことは当然ですが、コロナで経験したとおり、有事の際に文化は脆弱な面もあるため、どうしたら良いかという部分も重要だと思いました。

能崎委員 「まちなかコンサート」における撮影や録音の件ですが、SNSが普及している中で、よりオープンに提供していかないと市民は楽しめないと感じています。写真撮ってSNSにアップすることが、現在のムーブメントであり取組の広がりにも繋がるため、むしろ神奈川フィルに対して写真撮影OKにしてくださいとお願いして欲しいくらいです。最近プロオーケストラによるコンサートでも、アンコールは写真OKになっているケースが多いです。とりわけ、当該事業は「まちなか」で演奏しているので、市民が純粋に楽しめるよう、録音は著作権などの問題もあり難しいかもしれませんが、少なくとも写真撮影は可能とし、オープンにすることでSNS発信での波及により市民の認知にも繋がると思います。

小川委員 それについては、現地視察時に神奈川フィルの担当者に聞いたところ、当日はディズニーの楽曲などを演奏しており、著作権の問題で音源の共有が難しい旨を確認していますが、写真撮影は問題ないと話されていたと記憶しております。

川崎議長 ありがとうございます。結果報告書における総合評価の部分ですが、現状の記載では、提供している「音楽の質」は問題ないと考えています。ただし、機会を増やす点について改善して欲しいというのは当会議の総意かと思っておりますので、「継続」よりも「改善」が妥当かと考えています。ただし、今回の「改善」はネガティブなものでなく、むしろ、良いコンテンツにつき、より広げて欲しいという意味での「改善」に当たるかと思えます。

川崎議長 総合評価を「改善」に変更するにあたり、調査評価シートについても改めて確認したいのですが、「(1) 事業目的」の達成度は評価「3. ほぼ満足」が選択されておりますが、実際には満足できておらず、これは市として工夫すべき点であり「2. 工夫により改善」が妥当かと思えますかと思えますが、いかがでしょうか。

佐藤（昌）委員 実施回数が不足している視点で言えば、やはり満足はしていない状況だと思います。特に「学校コンサートを5校」、「まちなかコンサートを2回」は大変少なく感じます。

川崎議長 それでは当該達成度は評価「3」から「2」に修正をお願いします。「手段の妥当性」は「3」のままで問題ないかと思います。また、各項目における「横断的な戦略への貢献度」については、該当する基本目標に対し、施策への貢献度を求めるものでないと考えています。あくまで音楽を通じて横断的に進められているかという視点で言えば、そうではないことから評価シートの「項目18」は評価「4」を「2」に変更が妥当と感じていますがいかがでしょうか。

佐藤（敦）委員 あくまで市に対する評価という意味では賛成です。

川崎議長 もちろん当該評価についても神奈川フィルの取組を否定するものではありません。ほかにご指摘などはありますでしょうか。

田村委員 神奈川フィルの公演を聴いて評価するだけであれば、評価が高いのは当たり前の話だと思います。実施回数の課題については、ヒアリングシートにも書きましたが、各区の市民オーケストラなどに活躍してもらい音楽機会を提供するなども1つのアイデアかと思っています。今回の評価については、概ね事務局案で問題ないかと思っています。

田村委員 少し話は反れますが、今回の振興会議における文化アセスメントは、初めから「神奈川フィル」と「ラゾーナ寄席」ありきで話が進んでおり、なぜこれを対象として選んだのかという説明が少なかったので、単にスケジュールとおりに視察に行き、公演を見ただけでは、評価も難しいと感じています。決められたルートの中で協議するだけでなく、もっと川崎市全体の文化芸術をどうしたらよいかといった視点で我々の意見を聞いてもらい、その上で神奈川フィルをどうしたら良いかといった流れが必要だったのではないかと感じています。

田村委員 文化芸術振興計画を見ると、もっと文化振興に関する壮大な話が記載されており、このあたりの評価ができるものと期待していました。願わくば文化芸術の振興という視点でもう少し議論が深まるような話があっても良かったかと思っています。川崎の文化芸術をどうしたら良いかといった視点で会議の内容を深めるべきだと思います。

能崎委員 これらの事業をアセス対象に選んだ際、市が何に対してどれだけ補助しているかといった、全体像についても示されていなかったように感じます。そういった中で取組が良いとか悪いとか言われても評価が出来ません。700万円という補助金額が示されておりますが、これが高いのか安いのか価値判断もできない中では議論も深まらないと思います。取組自体は大変素晴らしいと思いますが、やはり全体の中でこれがどうかというのを見せて頂かないと評価も難しく感じます。

事務局 ありがとうございます。事務局に頂いたご意見という事で承ります。形式的には会議の中で選定した形にはなっているものの、全体像がお示しできていないというお話がありましたので、頂いたご意見を参考に、まずは文化施策全体の大きな方向性などについて、次年度会議において共有し、議論する形にさせて頂きたいと思います。

川崎議長 話を戻しますが、調査評価シートの内容について、改めてご意見を伺います。

保延委員 子どもの人材育成に関する「項目19」については、先ほどの達成度の項目に紐づく部分かと思うので、こちらも評価を「2」に下げるのが妥当かと思います。

川崎議長 人材育成が出来ていないわけではありませんが、改善の余地があるという意味では、評価を「3」から「2」に修正して問題ないかと思います。

事務局 これまで議論いただきました評価の修正等も含め、総合評価については「改善」に変更させていただきます。また、「改善」の内容は、神奈川フィルに対してではなく、あくまで市がもっと工夫をしながら取組を進める旨の記載に提言内容にも反映いたします。

事務局 修正後に改めて皆さまに確認頂ければと思います。とりわけ、実施回数については、財源の問題もありますので、皆様からのご意見を参考に単純な拡充ではなく、「様々な機会を捉え」といった旨の文言に修正させていただきます。

川崎議長 総合評価としては、やはり「継続」より「改善」の方が目立って良いかと思います。今回はあくまで戦略的に「改善」を選択しており、繰り返しになりますが、神奈川フィルの改善でなく、政策としての「改善」という意味です。それでは、本日の議論を踏まえ、事務局の方で修正をお願いします。

川崎議長 つづきまして議事（２）について、事務局から資料の説明をお願いします。

（事務局より資料２「文化アセスメント調査・評価シート（文化財団事業）（案）」
及び資料３「令和７年度文化アセスメント実施結果報告書（案）」の説明）

川崎議長 ありがとうございます。ただいま事務局より「川崎市文化財団事業」の実施結果報告について説明がありました。評価シート案や報告書案について、皆様から御意見や修正、強弱をつけた方が良い箇所などがございましたらお願いいたします。

川崎議長 それでは、まず私から１点。経営改善については、しっかりやって頂きたいと思えます。財団への補助金が人材育成等をはじめとした文化振興に振り向けられるよう、自主事業とは言っても料金が取れるところは、しっかり取って頂きたいと考えています。少なくとも収支均衡でなければ、文化振興に適切な予算が回らないと思うので、この辺りの内容は、提言として少し強めに記載しても良いかと考えています。

川崎議長 また、川崎駅の改札を抜けてから会場であるプラザソルまでの導線について、初めて行く方が辿り着くには難しい場所にある気がしています。商業条件的に厳しい面もあると思いますが、床に目印を標記いただくなど工夫できる部分をお願いしたいというのが正直なところです。

田村委員 評価シートの事業目的における「１３．設定の妥当性」について、以前は喫茶店で実施していたものを継承したと伺いましたが、規模で言えば、毎回の来場者数は平均８０名程度、人材の育成に関しても登壇する若手は数名程度の事業に対し、市の文化芸術に関する様々なものを背負わせ過ぎである気がしており、設定をもう少し柔らかくした方が良いように感じました。一方、コンテンツ自体が面白いことは間違いないと思います。現地視察の際、個人的に惚れ込んだ演者もいたくらい、大変素晴らしいものでした。

川崎議長 ありがとうございます。感想という事で承らせて頂きます。他にご意見などありますか。

佐藤（敦）委員 開催日時を毎月火曜日の１８時半からとしていることについて、前回のヒアリングの中で、土日は貸館で埋まっているため、現状の日程を変更することは難しい旨の説明があった事を踏まえると、現在の来場者数と価格設定で採算が取れない理由の１つは会場費も関係しているのでしょうか？

事務局 当該事業は主催事業につき、会場費については発生していない状況です。

佐藤（敦）委員 一般的にはイベントを開催すれば会場費が大きな負担となるため、もっとアクセスの良い場所における開催など、フレキシビリティのある場所に移してやれば良いかと思いましたが、別の場所に移しても解決策にはならないということですかね。

事務局 次年度のプラザソルにおける空調の改修工事に伴い、休館を予定しており、その期間において、会場費が発生しない場所での開催がベースとはなりますが、他施設での実施に係る検討も始めております。また、土日は貸館収入を得ることが優先にはなりますが、予定が埋まらないケースもあるため、土日の空いたところで開催してみることにはあり得ると思います。統計上も半年前に予定が埋まっていなければ、そのまま埋まらない傾向が確認できているため、そういったところを事前の広報なども含め試行的に開催してみる余地はあると考えております。

佐藤（敦）委員 開催時期や場所については柔軟に考えて良いかなと思います。また、内容に関しては大変素晴らしかったです。中学生や高校生はもちろん、小学生が鑑賞しても面白いコンテンツだと思っています。

小川委員 コンテンツの看板さえしっかりしていれば、場所はどこであっても客は付いてくるものでしょうから、休館をきっかけに試行的に場所を変えてみるというのは良いチャンスであるとも感じています。また、これを機に知る人が増えるかもしれません。個人的には可能性を感じる事業だと考えており、期待している部分が大きいです。

事務局 例えば土日開催とした場合、馴染みの演者が出演することが難しいとなれば、他の演者が出演するなど、人材を新規で開拓するチャンスにも繋がる可能性もあるため、そこはプラスに捉え可能性を探ればと考えております。

川崎議長 ありがとうございます。他にございますでしょうか。

能崎委員 運営の話ですが、最近は演劇やコンサートなどでも、昼間の方が料金は高い傾向にあります。夜だから客が来やすいという発想は古く、むしろ昼間の方が人は集まりやすい状況です。また、貸館については、昼間の方が空きはある気もしており、来場者の年齢層などを考えた場合、やはり火曜日の夜に固定せず、柔軟に見直しても良い気がしています。

佐藤（敦）委員 オペラなどでも、夜よりも昼間の方が圧倒的にチケットの売れ行きが良いと感じています。来場者が高齢であることも影響していると考えられますが、若年層への遡及などを考えた場合、曜日や時間を固定するメリットは少ないと感じています。

川崎議長 ありがとうございます。それでは、開催日時や開催場所のモデル試行という旨の記載を実施結果に追記して頂く形をお願いします。

佐藤（昌）委員 集客に関しては、高齢者層をターゲットの中心に据えた方が良い気がしています。若年層のお笑い好きは理解しておりますが、一方で彼らが求めている笑いと落語は笑いの質は乖離していると感じています。当然、若い方にも多く来ていただきたいと思いますが、方向性として若年層への訴求を優先させるよりは、既存の高齢者を主軸に据え伸ばした方が、より効果的な気がしております。

小川委員 知り合いに真打の噺家がありますが、若年層への落語の広がりには着実に出てきていると感じているようです。この流れは大切にしたいと考えており、若年層への訴求も重要ではないかと思えます。

川崎議長 来場者に係るターゲットについては、我々が議論することではなく、主催サイドが決めることだと思いますが、政策的な視点で言えば「幅広く」と目標に掲げられているので、「幅広く機会に触れていただく」ことを念頭に置いて進めていくべきだと考えています。提言の方向性としては、「若者も含め、まだ来ていない方に広げていく」という形での記載が良いかと思えます。また、繰り返しになりますが、文化施策の充実に向け、経営については少なくとも収支均衡を保つ程度には行って頂く旨の記載は必要かと考えています。ラゾーナは大きな商業施設につき、様々な方が往来しているので、こういった方々を取り込む工夫も求められていると思えます。

佐藤（敦）委員 収支均衡の観点で、例えば偶数月は昼間の開催、奇数月は夜の開催など、集客向上に向けた運営形態に係る検討を行う旨の記載があっても良いかと思えます。

川崎議長 ありがとうございます。調査評価シートの修正等はいかがでしょうか。

佐藤（昌）委員 魅力発信の項目「横断的な戦略17」について、これまでの議論を踏まえると、「戦略1. 親しめる環境づくり」は満足していないことから、評価は「2. 工夫により改善」が妥当だと考えます。

川崎議長 ありがとうございます。特にご意見等ないようでしたら、こちらの項目の評価を「3」から「2」に修正したいと思います。

川崎議長 一通りの御意見も出たようでございます。本日、議論された内容につきまして、事務局で評価シートと報告書に反映していただいたものをメールで全委員に送ってもらい、今一度、皆さまに御確認いただいた上で、私と小川副会長にて最終確認することで確定とさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

《委員から了承》

川崎議長 ありがとうございます。それでは、次第の最後になりますが、今後のスケジュールについて事務局より資料の説明をお願いいたします。

（事務局から資料4「今後のスケジュール（案）」の説明）

川崎議長 ありがとうございます。それでは、事務局から説明のあったとおり、来年度につきましては、10月の改選後に第8期文化芸術興会議体制において、決めさせて頂くという形でよろしいでしょうか。

《委員から了承》

川崎議長 ありがとうございます。なお、現在の第7期文化芸術振興会議としては、今年度の文化アセスメント報告まで行うこととなりますが、対面による会議開催は今回が最後となります。議事については以上となります。